

第2学年 国語科 1年間の学習と評価について

春日部市立豊春中学校

1. 学習目標

【1学年】

- ・自分の考えを大切にし、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を高めるとともに、話し言葉を大切にしようとする態度を育てる。
- ・必要な材料を基にして自分の考えをまとめ、的確に書き表す能力を高めるとともに、進んで書き表そうとする態度を育てる。
- ・様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

【2学年】

- ・自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。
- ・様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。

【3学年】

- ・自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。
 - ・様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。
 - ・目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。
- ものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて豊かに表現する能力を身に付けます。

※学年別配当漢字を読んだり書いたりし、文の中で使うことができる。

2. 年間の授業計画と学習のねらい

学年	学習内容	学習のねらい
1 学 期	「見えないだけ」(詩歌) 「アイスプラネット」(物語文) 「問いを立てながら聞く」 「枕草子」(古典) 「硬筆」(書写) 【漢字1 熟語の構成】 「クマゼミ増加の原因を探る」(説明文) 「新しい短歌のために」(短歌) 「短歌を味わう」(説明文) 「言葉の力」 【文法への扉1 単語をどう分ける？】 【言葉1 類義語・対義語・多義語】	◎言葉の使い方や表現の特徴に着目し、自分なりの感想をもちながら読む。 ◎言動に着目して、登場人物の関係や心情の変化を捉える。 ◎目的や状況に応じ、要点や順序を整理しながら聞き取る。 ◎日本の四季を描いた情景描写の巧みさを読み取り、作者の四季の捉え方や感じ方について自分の考えをもつ。 ◎横書きの配列に注意して楷書を書く。 ◎熟語の構成について理解する。 ◎文章の構成や、事実と考えの示し方に着目して、説明のしかたの特徴を捉える。 ◎解説文の筆者のものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えをもつ。 ◎文章には様々な立場や考えが書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする。 ◎活用のある自立語と活用のない自立語の性質や働きを理解する。 ◎類義語・対義語・多義語の意味を理解し、文章中で使う。
2 学 期	「盆土産」(物語文) 「字のない葉書」(物語文) 「推敲して適切な文章に直す」 【言葉2 敬語】 「モアイは語る—地球の未来」(説明文) 【漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字】 「平家物語(冒頭)」 (古典・古文) 「扇の的—「平家物語」から」 「仁和寺にある法師—「徒然草」から」	◎作品の構成や登場人物の描写に着目して、人柄や心情を読み取る。 ◎人物の言動や様子の描写に着目して、人柄や心情を捉える。 ◎伝えたい気持ちや用件を明確にし、効果的に伝わるよう表現や構成を工夫して手紙を書く。 ◎敬語の働きについて理解する。 ◎文章の構成や論の展開に着目して、筆者の主張を捉える。 ◎同音異義語の使い分けを理解する。 ◎古典の文章を朗読して、その独特の調子やリズムに慣れ、作品を読み味わう。 ◎登場人物の言動から心情を理解し、作品に描かれたものの見方や考え方について自分の考えをもつ。

	「漢詩の風景」 (古典・漢文) (説明文) 「君は「最後の晩餐」を知っているか」 (説明文) 「魅力を効果的に伝えよう」 「鑑賞文を書く」 【文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。】 (用言の活用) 「書きぞめ」「研究の現場にようこそ」 (説明文)	◎漢詩特有の言葉遣いや調子を生かして読み味わう。 ◎語句や表現の工夫に着目して、筆者のものの見方や考え方を読み取る。 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ◎表現のしかたに注意して、自分の考えをもちながら読む。 ◎行書の基本的な書き方を理解して書く。 ◎抽象的な語句に注意しながら事例と主張の関係を考え、内容を理解する。
3 学 期	「走れメロス」 (物語文) 「表現のしかたを工夫して書こう」 【文法への扉3 一字違いで大違い】 【言葉3 方言と共通語】 【漢字3 送り仮名】 「木」 (詩歌)	◎心情を表す語句や、登場人物の言動の意味などを考え、人物像の変化を捉え、作品を読み深める。 ◎場面や気持ちの変化が効果的に伝わるように、文章の構成や描写を工夫して書く。 ◎付属語について理解する。 ◎場面や気持ちの変化が効果的に伝わるように、文章の構成や描写を工夫して書く。 ◎方言と共通語の果たす役割について理解する。 ◎送り仮名の付け方の基本を理解する。 ◎言葉の意味を考えながら詩に込めた思いを捉え、自分の考えをもつ。

3. 評価の観点と方法

《主体的に学習に取り組む態度》

- ・知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている。
- ・前述の粘り強い学習を行う中で、自らの学習を調整しようとしているかを、自己評価シート、授業への取り組み、発表、ワークへの取り組み、宿題への取り組み、提出物等で見ていく。

《思考力・判断力・表現力》

(話すこと・聞くことにおいて)

- ・情報を的確に聞き取り、また、自分の思いや考えを聞き手に伝わるように話しているかを発表、単元テスト等で見ていく。
- ・話し合いの話題や方向を捉え、相手の反応を踏まえて話したり、自分の考えをまとめたりしているかを発表、単元テスト等で見ていく。

(書くことにおいて)

- ・身近な生活の中から目的や相手に応じた情報を集め、観点を決めて整理し分かりやすい文章を書いているかを発表、単元テスト、定期等で見ていく。
- ・具体的な根拠を挙げて、自分の考え（共感・納得、疑問・反論）を分かりやすく書いているかを発表、単元テスト、定期テスト等で見ていく。

(読むことにおいて)

- ・情景や人物描写に着目して登場人物の心情を読み取っているかをワークシート、単元テスト、定期テスト等で見ていく。
- ・文章の要旨を的確に捉え、学習を通じて自分のものの見方や考え方を広げているかをワークシート、単元テスト、定期テスト等で見ていく。
- ・作品の中の語句の意味や表現の特徴を捉え、自分の考えを持っているかをワークシート、単元テスト、定期テスト等で見ていく。

《知識・技能》

- ・語句の文脈上における意味を理解し、言語感覚を磨いているかを小テスト、単元テスト、定期テスト等で見ていく。
- ・漢字の組み立てや成り立ちに関心を持ち、漢字をおおむね正しく読み書きしているかを小テスト、単元テスト、定期テスト等で見ていく。
- ・段落の役割を考える際に、文と文、段落と段落を接続する語句の働きを理解しているかを小テスト、単元テスト、定期テスト等で見ていく。
- ・文法の必要性を知り、言葉の単位と文の組み立てと品詞分類を理解しているかを小テスト、単元テスト、定期テスト等で見ていく。

(硬筆において)

- ・今までに学習した書写要素の確認を行い、字形を整え、文字の大きさと配列に注意して楷書を書いているかを作品の提出により見ていく。

(書きぞめにおいて)

- ・行書の筆使いを意識し、特徴を捉え、仮名を調和させて書いているかを作品の提出により見ていく。